

SCHOOL DATA

〒283-0104 山武郡九十九里町片貝 3193
 TEL.0475-76-2100 FAX.0475-76-6585
 ■児童数 / 245人 ■教職員数 / 20人 ■周辺環境 / 住宅地、水田、海辺

平成22年
5月1日現在



新たに造るビオトープにわくわくしながら作業を行う高学年児童



重機での伐採の後、児童が力を合わせて作業を行い、ビオトープを完成させた

ビオトープの概要

- 場所 / 学校敷地内
- 面積 / 70㎡
- 設置者 / 学校
- 設置した年 / 2010年
- 主な管理者 / 教職員・児童・ビオトープ整備実行委員

【今後生息・生育させたい生物】

昔から九十九里地区に生息するゲンジボタル、メダカ、モノアラガイ等。特にメダカは第5学年の理科教材であり、観察しやすい学校敷地内に生息させることで、身近に親しみを感じて取り組める。ゲンジボタルについては、絶滅の危機に瀕しているため、九十九里に生息しているホタルを守り自然発生できる環境を作りたい。

<コンセプト>

本校は九十九里平野のほぼ中央に位置し、海岸線から陸地に約1kmの所にあり、県道周辺には水田もまだ存在し、自然環境に恵まれた地域である。しかし、このような自然の中で児童が遊んでいるかというところは少ない。身近な自然の観察の場を整備することによって、21世紀を担う子どもたちに環境保全の重要性や動植物の生命の大切さについて学ばせたい。具体的な活動としては、九十九里地区に生息しているホタルを中心とした水生生物や植物を農業のかからない校庭で自然に近い形で飼育栽培する。生物多様性が話題になっている今年、児童と生物がより安全に近くでふれあい、さらに興味を持って観察できるようにしていきたい。また、地域の方々が気軽に楽しく集える場としたい。



ビオトープの活用方法

■児童

- ・ 総合学習等で、観察会を開催する。
- ・ 理科学習で観察を行う。
- ・ 近隣の学校とビオトープ見学を行い意見交換をする学校ビオトープ交流会を行う。

■地域住民

- ・ 地域を対象とした観察会を開催する。

ビオトープの効果

■児童への効果

- ・ 昔から生息する生物とその生息環境を学ぶことにより、地域の自然についての理解を深め、環境保全についての意識を高める。
- ・ 環境や生命の大切さを理解し、優しい心を持つことができる。
- ・ 他校との交流や地域の方々とのふれあうことでコミュニケーション能力が身につく、よりよい人間関係を育む。

■教職員への効果

- ・ 生活科、理科、総合的な学習の時間の教材として、効果的に活用できる。

■保護者・地域住民への効果

- ・ 地域を対象とした観察会を機に、気軽に来校していただき、地域の方々や児童・教職員との交流を深め、開かれた学校をめざす。

保護者・地域との連携

■保護者

- ・ 年2回程度の清掃、草刈等の管理面について協力を要請する。

■地域

- ・ 環境学習アドバイザーの協力やPTA会長OBの会「千尋会」・PTA環境整備部の協力を得て、ホタルが自然繁殖できる環境整備に努める。



水張り式で歓声を上げる児童



地域の方からメダカをもらい、池に放流

整備・活用・管理等の課題

今回の整備は、環境学習アドバイザーの協力を得て、計画的に児童・保護者の作業を行うことができた。今後の維持管理は、児童・教職員・PTA会長OBの会だけでは難しい。定期的な清掃・草取りだけでなく、数年に一度は浚渫等の作業が必要になると思われる。今後の整備・管理にも、保護者や地域との連携を密にするとともに、環境学習アドバイザーとの関係も維持していく必要がある。

今後の展望

池にはメダカやゲンゴロウ等の水の中の生物に住みよい環境(水草)を作り、小川にホタルが自然繁殖できるように、専門家の方々にアドバイスをいただき整備していきたい。現在5・6年生が環境整備をしているが、児童会活動に位置づけて維持していきたい。今後は、現在のビオトープの周辺に水田や畑を整備して、自然に繁殖する様子が観察できるようになることを期待する。

整備担当者(教員、児童、保護者等)から

近くの池の中にはメダカや、ヤゴなどの生き物がたくましく生息している。今回、校庭の隅に新たに小川と池を作り、校内(校舎に隣接した場所)に自然を残し守る活動をしたことで児童が親しみを持つことができると思う。井戸水を流すことや循環させることで水温や水量を調節でき、ホタルの飼育に適した環境が整った。ホタルの幼虫の放流の成功を期待するとともに、今後の維持管理には、雨水の活用や太陽光発電の利用など、環境に配慮した形で運営についても検討してみたい。